

＜銚子市における公立保育園再編について＞

1.地域社会の存立基盤と保育の使命

銚子市が直面している少子化は、地域の存立基盤そのものを揺るがす深刻な事態です。令和3年から令和7年にかけての出生数の推移は、147人から108人へと、わずか5年間で約26.5%もの激減をしています。この数字は地域の未来に対する危機的なシグナルとして捉えなければなりません。このような状況下で、市が提示した公立保育所の再編方針(案)だけでは、市全体の保育所・子ども園・幼稚園の財政的な現状を改善することは、将来的にも難しいと思います。本再編計画には、行政が目指す「効率化」の背後で、最も守られるべき「子どもの最善の利益」が、埋没してしまうことへの強い懸念があります。保育は、効率やコストのみで測れるものではなく、子どもの人格形成の根幹を成す「愛着形成」と「環境の継続性」にこそ、その本質があります。市の再編計画が少子化問題の根本解決には繋がらないのではないかと思慮した上で、これから私たちが、どのようにすれば子どもたちの最善の利益を守り、かつ保育に携わる、そこで働く人も含めて、全ての関係者の努力が報われるか、私立保育園の視点から提言を行うものです。

2.銚子市公立保育所再編計画について

銚子市の再編案は、第二保育所(定員150人・築40年)と第四保育所(定員120人・築45年)を統合し、令和12年4月を目標に定員120人程度の新たな公立保育所へと縮小する内容です。この計画の根底にあるのは、施設の老朽化に伴う維持管理コストの増大と、就学時前児童の減少下での人員配置の非効率性を解消しようとする財政的な要請だと思います。

3.定員および入所見込児童数の推移と予測値について

大変恐縮ですが、推移表を見ると、令和12年の統合で定員入所率が77.8%へと回復するのですが、これは「見かけ上の改善」に見えます。その実態は母数である定員を150人分削減した結果に過ぎず、少子化という負のトレンドそのものに歯止めをかける施策ではありません。また、令和7年度と比較すると、約9%の減少であることは見過ごせません。このことは、現時点でも、定員が充足していない私立保育園にとっては、根本的な解決になっておりません。また、入所見込児童数が令和10年以降、533人で横ばいになると予測されている根拠もありませんので、出生数減少が続けば、再び再編の議論が繰り返されるだけです。

4.少子化問題の根本的解決を阻む「縮小均衡」

市の再編計画は、減少する需要に合わせて供給を絞るという解決方法です。しかし、この受動的な対応では、少子化の根本的解決には至らないと思います。むしろ、全体の、子育て支援の質の低下を招き、さらなる人口流出を加速させる懸念があるのではないのでしょうか。

5.人口流出の懸念

銚子市における出生数の減少は、単なる自然減だけではありません。若年層、特に女性が就学や就職、結婚を機に市外へ流出する傾向が強く、その背景には女性が働き続けられる多様な職場の不足があります。農水産業を中心とした産業構造の中で、銚子市で仕事をしていても、隣接市町に住み通勤する者がいる現状は、銚子市が「住む場所」として選ばれていないことを明確に示しています。このような中で、保育所の定員を削減する再編だけを行うことは、子育て世代に対して「この街は子育てに消極的である」というメッセージを送ることになりかねません。少子化を抑制するためには、保育所を単なる「預かりの場」から、地域を元気にし、子育ての魅力を高める「拠点」へと進化させる発想の転換が必要ではないでしょうか。そこを共に行政と考えていく視点も必要ではないでしょうか。

6.公立と私立の役割分担と経営の不安

公立保育所は障害児や養育に配慮が必要な児童、家庭の事情が複雑な児童の受け入れといった「セーフティネット」としての役割などを担ってきました。一方、私立保育所・子ども園・幼稚園は独自の理念に基づいた保育を提供し、公立を補完しながら、お互いに切磋琢磨する関係にあります。しかし、市の計画は公立の効率化にのみ焦点を当てており、私立保育園が直面する経営不安や、児童減少に伴う「集団で保育をしていくこと」の減退への対策が乏しいです。児童数が減少しても、保育に必要な人員や施設の維持費は一定程度発生するため、定員割れは私立の経営を直撃します。人員整理などをすれば、市で働く貴重な人材が失われていきます。このように、行政が公立の定員を削り、見かけの入所率を調整しても、地域全体の保育インフラが脆弱化すれば、結果として「子どもの最善の利益」は損なわれることになります。だからこそ、子どもにとっての「最善の利益」とは何かを私たちは再考する必要があります。今大切なのは、単なる知識の習得だけではなく、遊びに没頭できる環境こそが、子どもたちの最善の利益に直結します。

7.保護者に寄り添う「良き相談相手」としての役割

全ての園は子どもだけでなく、保護者にとっても重要な居場所です。一人ひとりの保護者に寄り添い、共に成長を喜び、時には悩みを聞く「良き相談相手」となることこそ、少子化で孤立しがちな現代の子育て家庭において、虐待予防やメンタルヘルスの観点からも極めて重要です。民間保育施設もまた、地域のニーズ、保護者のニーズに応じて柔軟に機能を拡張していくには、どうしても財政を含めた支援が欠かせません。

8.「報われない努力」にならないために

私たちにとって、現場の保育士や運営者が、どれほど「子どものために」と努力を重ねたとしても、児童数が減り、それに伴って運営費の予算が削られ、施設が縮小・閉鎖される未来しか見えないのであれば、それは「報われない努力」となってしまいます。保育の質を維持・向上させるためには、努力が成果として現れ、職員が働き続けられる安心感を提供していくことこそ大事です。」

9. 保育の質に基づく支援と連携

現在の再編計画は、機械的な「児童数÷定員」で議論されています、今後は「保育の質」も考慮した支援策も検討してほしいです。例えば

1. **職員配置の弾力化**: 児童数が減ったことを「人手を減らすチャンス」と捉えるのではなく、「一人ひとりに手厚く関わられるチャンス」と捉え、配置基準を上回る人員体制への助成を強化。
2. **専門性の高い人材の確保**: 臨床心理士や言語聴覚士などの発達支援の専門性の高い人材を確保し、保育園、保護者、そして子どもたちの支援のために強化。

公立と私立が地域の宝である子どもを共に育てるパートナーとして再定義する必要があります。

連携項目	具体的な内容	期待される効果
共同研修の実施	公私立の保育士が合同で発達支援や危機管理等の研修	市内全体の保育水準の均質化と専門性の向上
人材バンクの創設	潜在保育士や専門講師の情報を市が管理し、各園のニーズに合わせて紹介	人手不足の解消と多様な教育機会の提供
ICTによる情報共有	入所状況や空き情報をリアルタイムで共有し、保護者が選択しやすい環境を整える	手続きの簡素化とマッチングの最適化

10. 子どもの最善の利益を守るための具体的提言: 市役所へのメッセージ

以上の分析を踏まえ、6つの提言を行います。

提言 1: 保育施設を「地域子育て支援の総合ハブ」へ転換

定員が空いた余剰スペースを「在宅育児家庭の解放区」として活用しては。

- **多機能型拠点の設置**: 統合後の施設や、私立保育園の空き教室を、放課後児童クラブ、子育てひろば、世代間交流スペースとして複合的に活用する。これにより、保育園は「入所児だけの場所」から「地域住民の交流拠点」へと進化されていく。

提言 2: 少子化の根本解決に向けた「産業・雇用政策」との完全連動

子育て支援課だけでなく、農林水産、都市整備部門と連携した包括的なプロジェクトとして推進しては。

- 「子連れ出勤」や「柔軟な働き方」を支援する企業への助成: 市内の事業所が子育て中の女性を雇用しやすくするため、企業内保育の設置やテレワーク導入を市が支援。

提言 3: 配慮が必要な子どもたちへの積極的な支援

- 発達支援への個別対応強化: 発達障害や成長が遅れを心配している保護者に対し、臨床心理士や言語聴覚士などの専門員による相談と支援。

提言 4: 私立保育園の「特色」を活かした独自教育への財政支援

公立が効率化のために画一化されるのであれば、私立はより多様な教育を考えていくことも必要だと思います。市はそれを「地域の教育力」として公的に財政支援することは、子どもの成長に有用です。

提言 5: エビデンスに基づく中長期的な「児童推計」

「横ばい」と仮定する楽観的な予測ではなく、最悪のシナリオも想定した強靱な計画の立案。

提言 6: 産婦人科などの開設に向けて

現在、市内には産婦人科がありません。発達支援に強い小児科も少ないです。その状況を改善してほしいです。

11. 結論

今回の再編計画は、銚子市という大きな「園」をどのように手入れし、次の世代に引き継いでいくかという問いそのものです。効率化の名の下に、園の土壌を削り、種を間引きしていくことは、結果として園全体を枯らすことに繋がらないでしょうか。児童数が減っている今だからこそ、一人ひとりの子どもに注ぐ手間と愛情をそそぎ、この街で育つことが「誇りであり恵み」であると感じられる社会を構築すべきです。どんなに努力しても報われないと感じる閉塞感を打破できるのは、大人の都合ではなく「子どもの幸せ」を真ん中に置いた英断です。本提言が、銚子市の未来を担う子どもたちのために、実りある議論の出発点となることを切に願います。私立保育園もまた、その歴史と誇りにかけて、この街の子どもたちの最善の利益を守り抜くために、銚子市と共に歩みます。